

しまうのではないか、との結論であった。つまり、絶対にゆるがせにできない作品ではないということだ。隙間だらけで緩いのである。曖昧なところもあれば矛盾もある、と感じさせられるのだ。それでいて、どこかを動かす、何かを加える、あれこれと細工する、そんなことではびくともしない強固な骨格を有している。それがシェイクスピア戯曲の構造の秘密だと思う。骨組みは動かさず、しかし自由に肉付けや彩色ができると感じるからこそ、多くの芸術家が触発されて、かくも多彩な派生作品（巻末データにあるように私がチェックしただけでも三七〇作）が生まれたのだろう。その主な作品を、原作タイトル別、ジャンル別に紹介するのが本書の意図である。ただし派生作品はごく一部しか紹介できなかつたし、後半は駆け足にならざるを得なかつた。関心をお持ちの方は巻末データを参考に、各作品に当たつていただきたい。

執筆に際しては明治書院の松井孝夫部長、編集担当の川本ときさんと何度も打ち合わせを行つたので軌道修正できたと思うが、本の性質上どうしても著者の観た作品、読んだ作品に限定されていることをお断りしておく。なお、本文中の敬称は略させていただいた。

最後になつたが、松井部長の適切なアドバイスと川本さんの克明なチェックによつて、多くの不備を補うことができた。お二人に改めて謝意を表したい。

二〇一〇年六月吉日

野口 卓

シェイクスピア美術展

口総 i - iv

はじめに……… 3

第一章 なんたつて四大悲劇

一 ハムレット	38
小説	14
戯曲	22
芸能	28
映画	29
音楽	34
絵画	36
二 リア王	38
小説	42
戯曲	44
芸能	49
映画	50
音楽	54
絵画	56
三 マクベス	56
小説	61
戯曲	63
芸能	65
映画	67
音楽	70
絵画	72
四 オセロ	75
小説	79
映画	82
音楽	86
絵画	91

第二章 続く人気作品はこれ

一 リチャード三世	94
二 ジヤジヤ馬ならし	115
戯曲	118
芸能	110
映画	111
音楽	101
絵画	105
小説	108
戯曲	98
映画	100
音楽	101
絵画	114
四 ヴェニスの商人	124
小説	127
戯曲	130
映画	131
音楽	131
五 ウィンザーの陽気な女房たち	133
芸能	136
音楽	137
六 真夏の夜の夢	141
映画	143
音楽	145
絵画	147
七 空騒ぎ	148
戯曲	151
映画	152
音楽	153
一 テンペスト(あらし)	156
二 尺には尺を	158
三 ヘンリー四世(第一、二部)	160
四 ヘンリー五世	162
五 ヘンリー六世(第一、二、三部)	164
六 アントニーとクレオパトラ	166
七 お気に召すまま	167
八 十二夜	168
九 ジュリアス・シーザー	169
十 ヴェローナの二紳士	169
十一 冬物語	169
十二 ジヨン王	170
十三 ヘンリー八世	170
十四 間違ひの喜劇	170
十五 リチャード二世	170
十六 アテネ(アセンズ)のタイモン	170

第三章 その他の作品も多彩

一	テンペスト(あらし)	158
二	尺には尺を	
三	ヘンリー四世(第一、二部)	160
四	ヘンリー五世	162
五	ヘンリー六世(第一、二、三部)	164
六	アントニーとクレオパトラ	166
七	お気に召すまま	166
八	十二夜	167
九	ジュリアス・シーザー	167
十	ヴエローナの二紳士	168
十一	冬物語	168
十二	ジョン王	169
十三	ヘンリー八世	169
十四	間違いの喜劇	169
十五	リチャード二世	170
十六	アテネ(アセンズ)のタイモン	170

- | | |
|------------------|-----|
| 十七 恋の骨折り損 | 170 |
| 十八 コリオライナス | 171 |
| 十九 タイタス・アンドロニカス | 171 |
| 二十 エドワード三世 | 172 |
| 二十一 サー・トマス・モア | 172 |
| 二十二 終わりよければすべてよし | 172 |
| 二十三 シンベリン | 173 |
| 二十四 トロイラスとクレシダ | 173 |
| 二十五 二人の貴公子 | 173 |
| 二十六 ペリクリーズ | 173 |

- | | |
|-----------------------------|-----|
| 卷末データ ジャンル別シェイクスピア戯曲派生370作品 | 174 |
| 小説 | 174 |
| 戯曲 | 180 |
| 芸能(歌舞伎、狂言、落語、演芸) | 182 |
| 映画 | 185 |
| 音楽 | 191 |
| 絵画 | 197 |

主な参考資料

202

「ハムレット」「リア王」「マクベス」「オセロ」
これがシェイクスピアの四大悲劇と称される名作で
戯曲を読んだことや舞台を観た経験がなくても
タイトルを知らない人はまずいないだろう

全四十作（これまで三十七作とされていた）の中でも
特別扱いされているだけに人気は高く

頻繁に上演されているし派生作品也非常に多い
紙数の関係でそのすべてを紹介しきれないので
卷末データのジャンル別一覧表をご確認を
評論や随筆も触発されてたくさん書かれているが
厳密には派生作品と言えないでのデータからは割愛した

第一章 なんたつて四大悲劇